

2 0 1 9

| No.06 |

光村図書

英語 Here We Go! 相談室 教育

旅のことば
石田ゆうすけ

子どものための
BOOK GUIDE
I am a Bunny



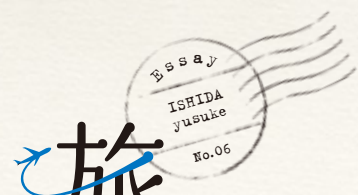
特集

こんなに変わるの!?

ラウンドシステムで学力が大幅アップ!

横浜市立南高等学校附属中学校・横浜吉田中学校・中川西中学校(神奈川県)

この冊子は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、
一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり配布しております。



旅のことば



石田ゆうすけ
いしだ・ゆうすけ

旅行作家・エッセイスト。赤ちゃんパンダが2年に一度ぐらい生まれる和歌山県の白浜町生まれ。自転車で7年半かけて世界を一周する。その旅をつづった『行かずに死ねるか!』(幻冬舎文庫)は台湾、中国、韓国でも出版され、国内外で累計24万部を超えるヒット作に。他に『いちばん危険なトイレといちばんの星空』『洗面器でヤギごはん』(ともに幻冬舎文庫)など。

詐欺師を笑顔にすることば

旅行者をカモにしてやろう、と手ぐすね引いて待つている連中は、どの国にもいる。そんな彼らにつきまといられたときに役立つ英語をひとつ、お教えしますね。

あれはモロッコの観光地。海辺で夕日を見ていると、ヒゲ面のオヤジがやってきて、英語で話しかけてきた。「俺には日本人の友人がいるんだ。家に写真があるから見にこないか?」

毎度おなじみのセリフだ。友好で誘ってくる人もいるが、このオヤジはたぶん、違う。経験を積みば、だいたい見分けはつく。僕はやんわりと断った。

「何を心配してるんだ。俺は信用に値する男だ。それが証拠にこれを見ろ。日本の友人が俺にくれた手紙だ」。

オヤジはそう言って、シャツの胸ポケットから手紙を何通も出してきた。もうすぐで噴き出すところだった。そんなもの、常に持ち歩いてるの? 不自然でしょ。

好奇心から一枚読ませてもらうと、日本語でこう書かれてあった。

《この人は信用できません。詐欺師です。》

体がプルプル震えた。オヤジは何が書かれているのか知らずに僕に見せ、自慢げに鼻を膨らませているのだ。

しかし、どうも憎めなかった。やり口が紋切り型すぎて笑えるうえに、大きな鼻がついたその顔にはどこか愛嬌があって、見ているだけで親近感がわくのだ。

手紙を次々に広げ、懸命に自分をアピールするオヤジに、僕はやさしい気持ちになって「OK, もういいよ」と声をかけ、続けて、ゆっくりこう言った。

“I know.”

俺、そういう手口、ぜんぶ知ってるから――。

オヤジは一瞬固まり、僕の顔を見たあと、きまり悪そうに笑い、手紙をていねいに畳んでポケットにしまった。それからふたりで夕日を眺め、旅の話をしたり、彼の子どもの話を聞いたりして、静かに笑い合ったのだった。



英語 Here We Go! 相談室 教育

2 0 1 9
| No.06 | C O N T E N T S

旅のことば

詐欺師を笑顔にすることば
石田ゆうすけ

特 集

02 こんなに変わるの!?
ラウンドシステムで
学力が大幅アップ!

ラウンドシステムって何?
作・画/あべかよこ

事例

横浜市立南高等学校附属中学校
横浜市立横浜吉田中学校
横浜市立中川西中学校

ワークシートのご紹介

連 載

16 **小中をつなぐポイント** [第6回]
授業づくりを振り返るポイント
太田 洋

18 **今日から使える!
Classroom English** [第5回]
活動の指示の表現③
菅井幸子

20 **小学校英語と
デジタル教科書・教材のこれから**
東 仁美

22 **子どものための
BOOK GUIDE** [第6回]
I am a Bunny
金原瑞人

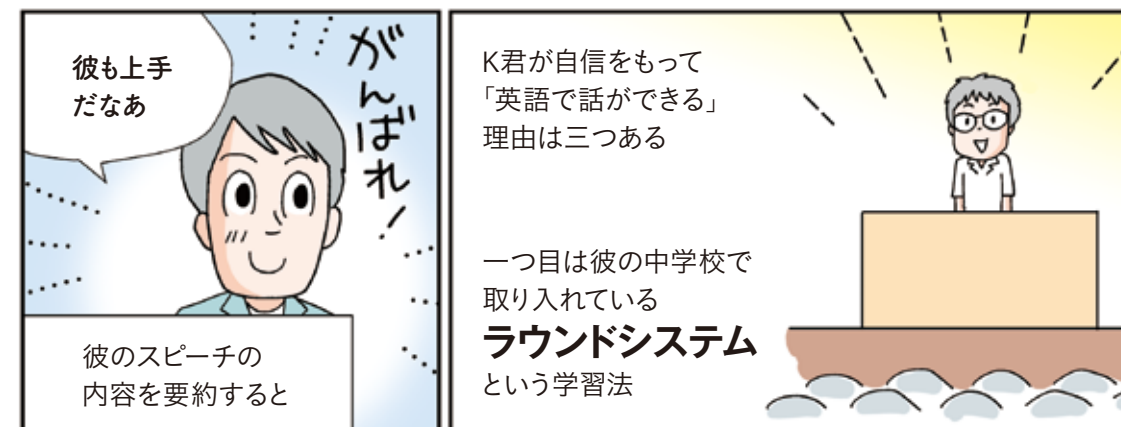
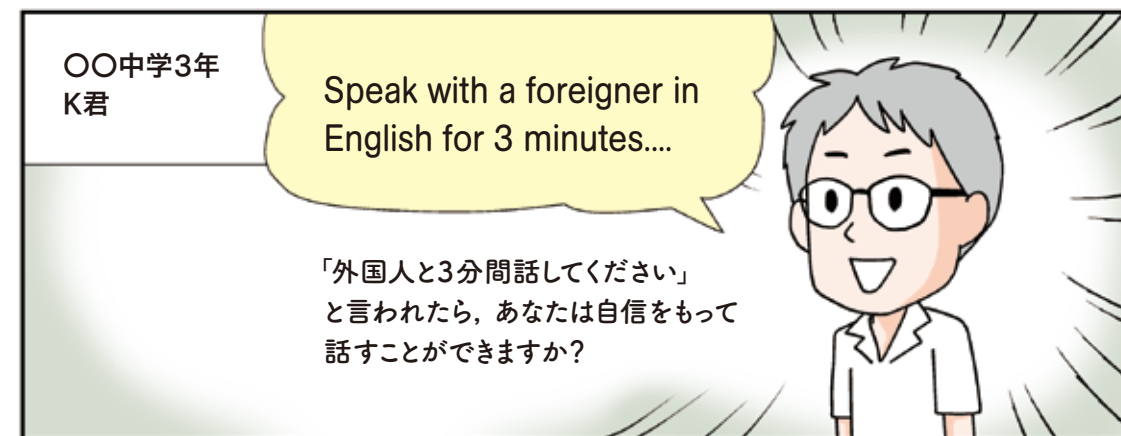
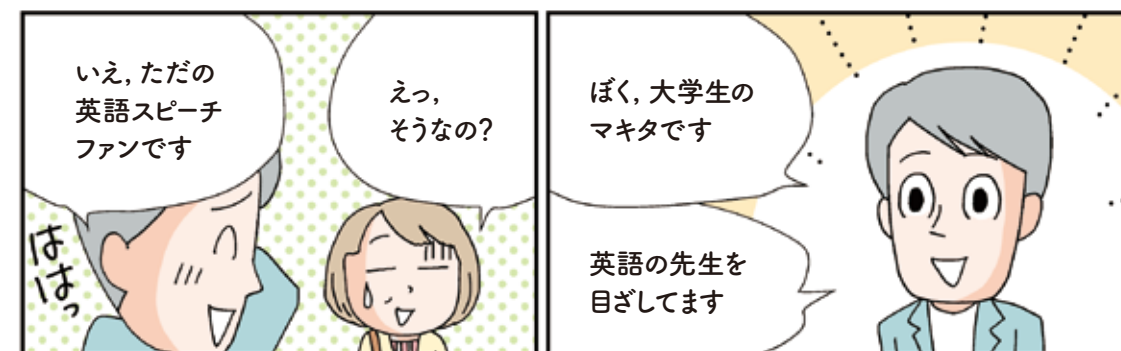
特集 こんなに変わるの!?

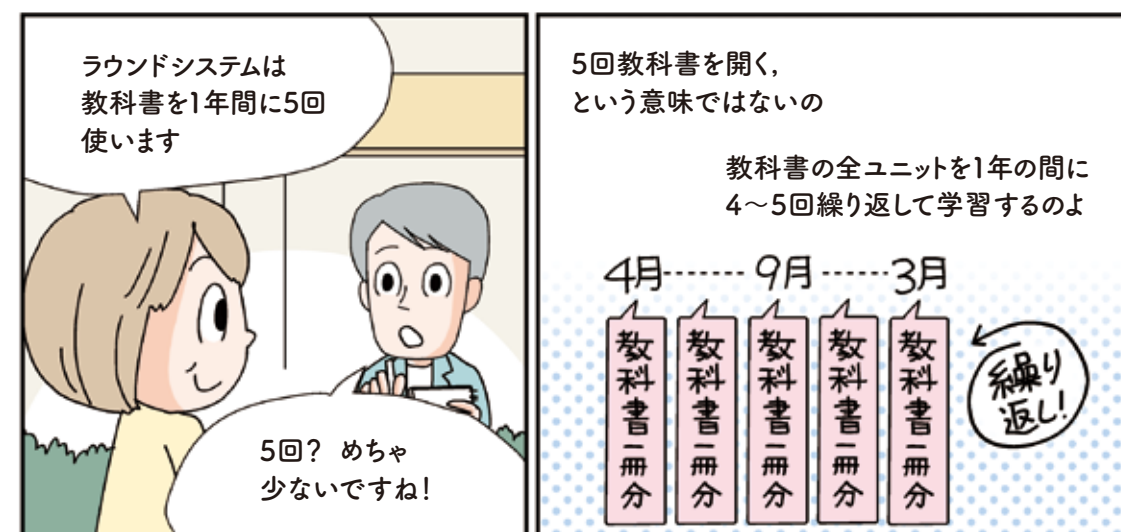
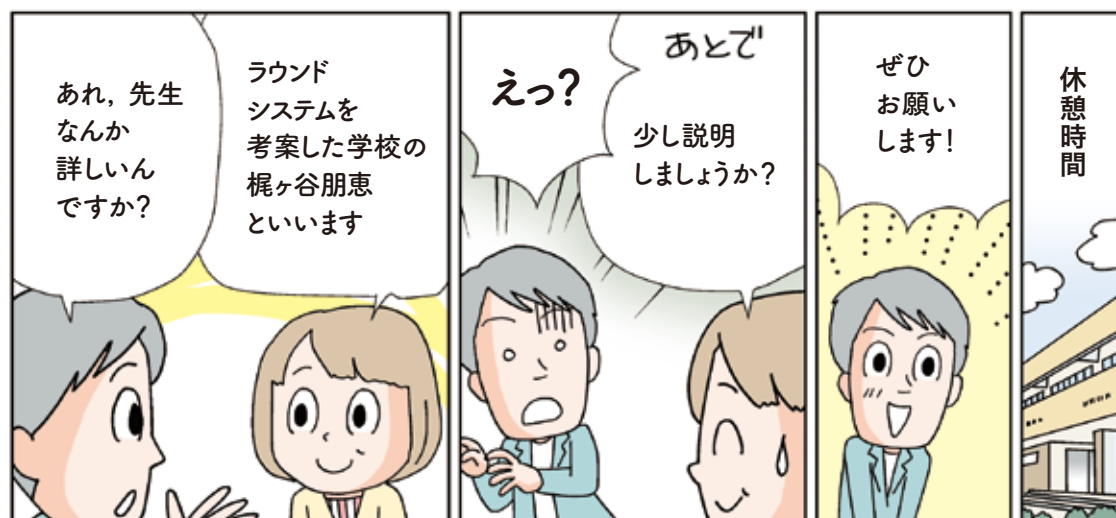
ラウンドシステムで 学力が大幅アップ!

今年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果から、
中学生の英語4技能のうち、特に「話す」「書く」に課題があることがわかりました。
本特集でご紹介するラウンドシステムという学習法は、即興でのやり取りなど英語力全般、
なかでも「話す」「書く」力の育成に絶大な効果を上げています。
ラウンドシステムとはどのような学習法なのか、その進め方や
実際の授業の様子などをご紹介します。

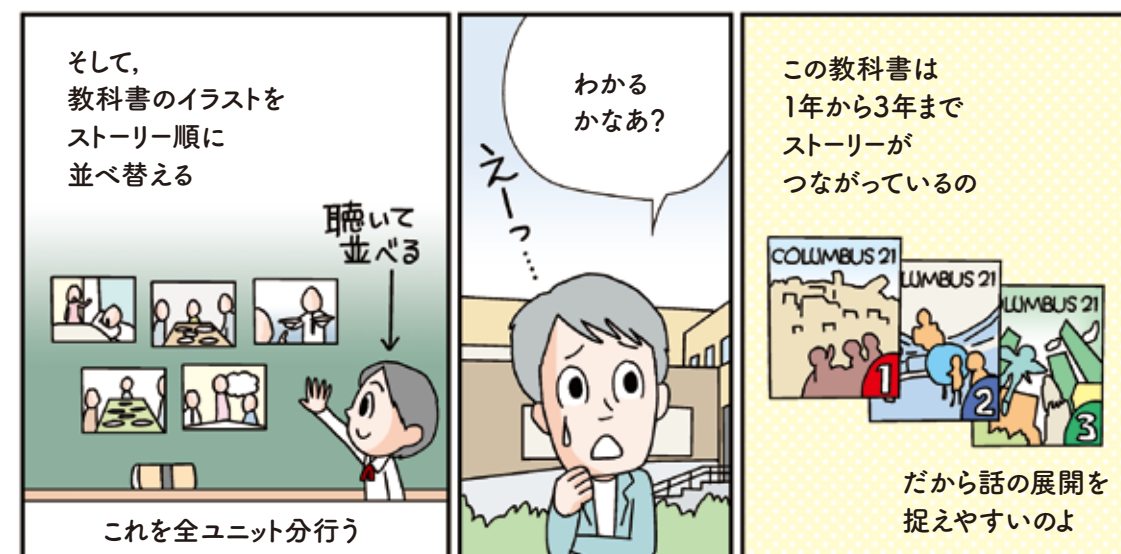
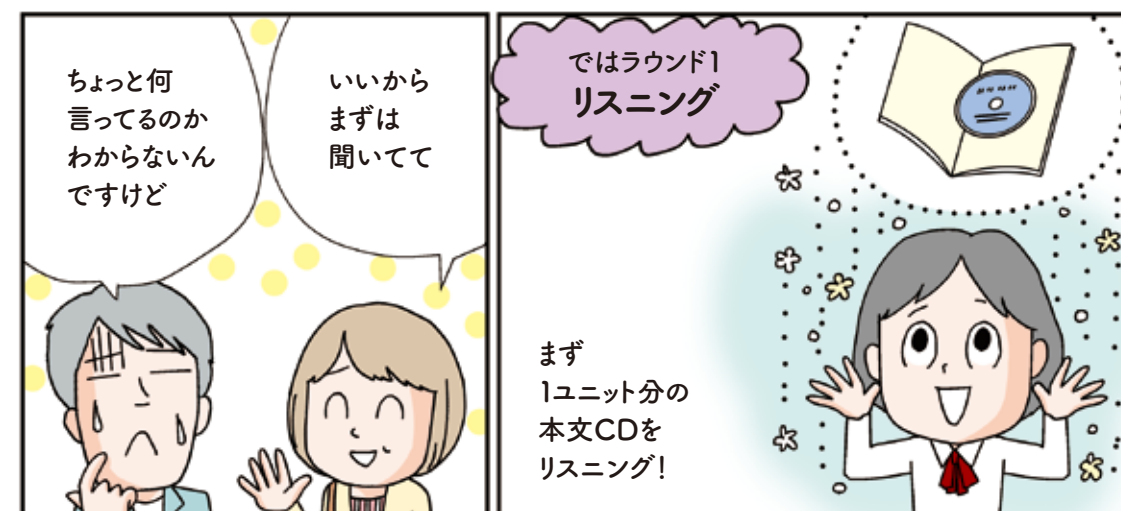
ラウンドシステムって何?

作・画 あべかよこ





※中学1年生の授業展開です



次はラウンド2
音と文字の一致

CDを聴いて
正しい順番に並べ替えます

音と文字を一致
させてから……

教科書の文章が
ランダムに並んでいる
ワークシートを使うの

1 ~ 9

Nick: Sorry. Pancakes, please. ()
Mrs. Rios: Good morning, Nick. ()
Mr. Rios: Pancakes, please. (6)
Nick: Hi, Mom. ()
Mrs. Rios: Which do you want, toast or panc

ほお
ほお



ラウンド3
音読

ここで教科書を
開きます

やっと?

ここまで生徒は
70回以上リスニングを続けているので

It's seven thirty,
sleepyhead!

あれ?
なんか
言える!

スラスラ〜



音読のあとは
ライティング

教科書の本文を
書き写します

宿題ぞ…



話の内容,
音と文字が
すでに
インプット
されているから

このときの
生徒の勢い
はすごいよ

やばい!
書ける!

私も!



ラウンド4
穴あき音読

穴あき具合が
4段階に調整された
ワークシートを使って
音読をします

4段階目は
ほとんどが穴!



そしてラウンド5
リテリング

教科書の内容を
自分の言葉で
説明します



ラウンド
1~4まで
じっくり
インプット

ラウンド5でアウトプット!

簡単に言うとな
そうね



ねらいは
教科書本文を
生徒が自由に
使えるように
なるまで

「染み
込ませる!」
ことなんです

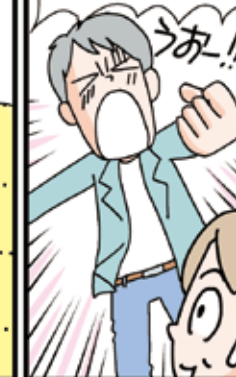


教科書本文が
全てインプット
されるなんて

すごい!!

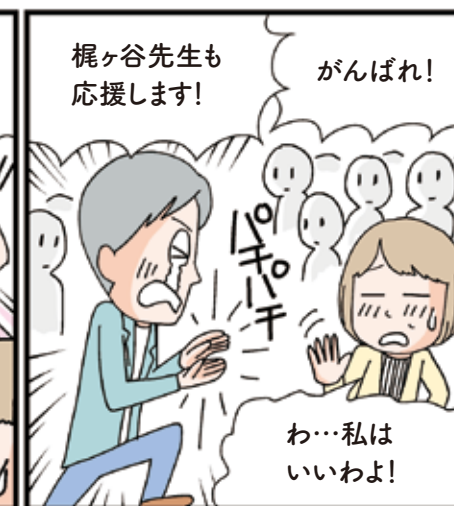


そして感動
したっ!



梶ヶ谷先生も
応援します!

がんばれ!



ラウンドシステムの実際の授業の様子はこちら-->



事例1

1年・ラウンド2(音と文字の一致)

横浜市立南高等学校附属中学校 授業者: 山本丁友先生

使用教材:『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』1(光村図書) Unit 6

リラックスした雰囲気の中、ウォームアップの会話がスタート。“How are you today? Hungry? Sleepy?” “Who is sleepy?(眠い人はいるかな?)” 先生からの問いかけに、数名が挙手。“What time did you go to bed?(何時に就寝したの?)”と尋ねると、生徒の一人が“10 o'clock.”と大きな声で答えた。“After 10 o'clock?(10時以降の人はいる?)”先生が教室を見渡すと、今度は一人の女子生徒が控えめな口調で答えた。“12 o'clock.”その回答に、山本先生は“Oh! You are like Cinderella!! (まるでシンデレラだね)”生徒は一斉に笑いだし、教室はさらに和やかな空気に包まれた。

英語ができないと思わせない

「間違いを恐れずに話すためには、授業の中での安心感が大切」と語るのは、山本丁友先生。特に1年生の授業では、英語ができないと思わせないように、細かい間違いをあまり指摘しないように心がけているとのこと。同校は、2012年の開校当時より、「英語を自分の言葉として、のびのび表現できる生徒を育てる」という目標



安心して発言できる雰囲気ができあがっている、山本先生の授業。

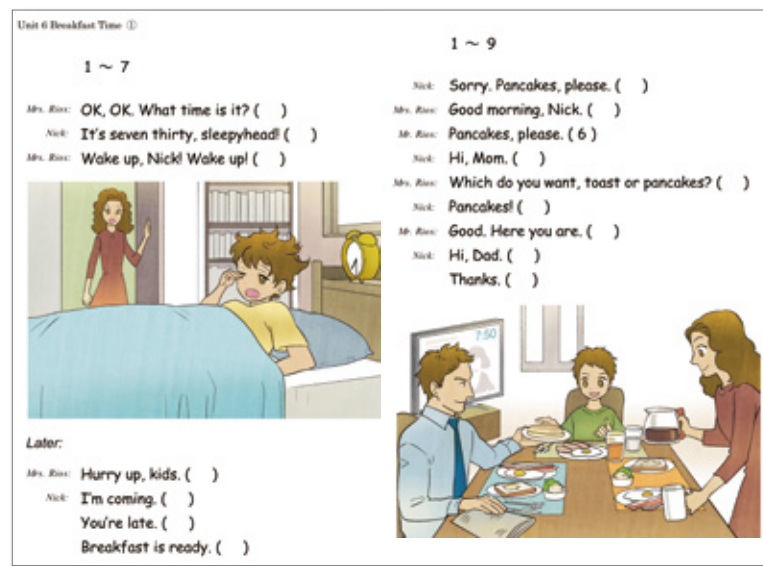
のもと、英語教育に取り組んできた。その目標を実現するための手立てとして考え出されたのがラウンドシステムだ。

飽きさせないで何度も聴かせる

十分なウォームアップのあと、教科書Unit 6の活動に入る。生徒がUnit 6の内容に触れるのは、ラウンド1以来約2か月ぶりのこと。“Do you remember the story of Unit 6?(Unit 6のストーリーを覚えているかな)”先生がUnit 6の扉の写真を見せながら問いかけると、生徒たちは、ほんの一瞬の間のこと、「寝ぼうした話じゃない?」「パンケーキ!」など次々に発言しはじめた。

生徒はストーリーをよく覚えているようだが、実は和訳をしたことはない。2か月前のラウンド1で取り組んだのは、リスニングのみによる内容理解。CDを聴いて、教科書のイラストをストーリー順に並べ替えるという活動だ。使用している教科書(『COLUMBUS 21』)は、全体が一つのストーリーになっているので、話の展開を捉えやすい。

本時は、ラウンド1でおおまかに理解したストーリーの「音と文字の一致」を行う。生徒は、教科書本文が順不同に並んでいるワークシート(※1)を見ながらCDを聴く。そして聞こえた順に番号をつける。全員が番号をつけられるまでには、CDを3〜4回聴かせる必要がある。飽きさせないこつは、CDを1回流すたびに、生徒たちに適切な声をかけることだ。初めは、「難しくて当然」「少しずつ埋めていこう」など、生徒



※1 教科書本文が順不同に並んでいるワークシート

を安心させて学習に向かわせる言葉、あともう一步というところで、“One more chance!”, 全員が聴き取れたあたりで、少しあおるように“Final chance!!”と投げかける。

そして、ペアで番号を確認し合ったあと、教科書を開いて、確認の意味でもう一度CDを聴く。この日は、Unit 6全文を計4回、全員が集中して聴くことができた。

ラウンドシステムは、スローラーナーにやさしい

ラウンドシステム実施初年度から同校に勤務する梶ヶ谷朋恵先生はこう語る。「ラウンドシステムは、やみくもに活動を繰り返すのではなく、言語習得理論に基づいた目的と意図をもって行っています。1のアウトプットには100のインプットが必要。アウトプットを急がせないで、まずは十分に音を聴かせる。正しさよりも、英語の自然な流れを先に身につけるのが、この学習法の特徴です」。

ラウンドシステムは、これまでにない学習法



授業中、笑顔が絶えない山本丁友先生。

〔特集〕
**ラウンドシステムで
学力が大幅アップ!**

なので難しいのかといえ、生徒にとっては全く逆だという。話したり書いたりさせる前に、これだけたくさん音声を聴かせるのは、むしろ手厚いといえる。「スローラーナーにやさしいんですよ」と梶ヶ谷先生は語る。実施8年目の今では自信をもってそう言えるが、最初は、この新しい学習法に心配もあったそう。しかし、開始から半年が過ぎたころ、生徒の様子を見て、「これでいいんだ」と確信したという。「私のこれまでの勤務経験の中で、どんなに英語が得意な子でも、ここまで積極的に話したり書いたりする姿は見たことがありませんでした。また、発音のよさには舌を巻きました」。当時の驚きは今でも鮮明に思い出せるようで、先生の言葉には熱がこもる。

ラウンドシステムは4技能をバランスよく育成することができるが、なかでも「話す」「書く」力の育成において、これまでの英語教育にはみられなかった成果を出しているという。この斬新ともいえる学習法が、これからの英語教育を変えていくのではないだろうか。



事例2

3年・ラウンド2(音読) ※同校の3年生は4ラウンド制。

横浜市立横浜吉田中学校 授業者: 小松篤史先生

使用教材: 『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』3(光村図書) Unit 7

休み時間のにぎやかな廊下からは、日本語の声に交じって、中国語の声も聞こえてくる。横浜中華街にほど近い同校は、全校生徒の約半数が、外国にルーツのある子どもたちだ。「英語を共通の言語にして、生徒どうしや、教師と生徒のコミュニケーションをもっと豊かにしたい。そのために、従来のやり方にとらわれず、効果的な学習法を取り入れよう」。そんな考えから、小松篤史先生はラウンドシステムを始めたという。

オールイングリッシュだからこそ全員が参加できる

小松先生の授業はオールイングリッシュで進められていく。他の教科では、日本語の支援が必要な生徒が別教室に行くこともあるが、英語は、クラス全員がいっしょに授業を受けられる。

“Do you know what you’ll talk about today? (今日のトークは何だと思う?)” 授業の冒頭、生徒たちに投げかけると、数名が“Chorus?” とつぶやく。前日の合唱祭で、この3年1組は惜しくも優勝を逃している。しかし先生が、“Some of Class 2 students said, ‘Class 1 will win’.” (‘1組が優勝する’) と言っていた2組の生徒もいたんだよ” そう話したとたん、それまで静かに受け答えをしていた生徒たちが一斉に「おおっ!」という声をあげた。生徒たちの気持ちをよく捉えているトークだ。

先生と生徒によるトークのあと、今度は生徒どうしてトークを行う。合唱祭で優勝を逃した気持ちを、英語で表現するのはなかなか難しい。



オールイングリッシュが日常になっている小松先生の授業。

生徒たちが歯がゆい思いをしているところで、先生は、教科書p100「The Chorus Contest」(※1)を開かせた。今のこのクラスにぴったりの内容が書いてあるページだ。ここから気に入った表現を取り入れることで、トークをレベルアップさせていった。



※1 『COLUMBUS 21』3 p100「The Chorus Contest」合唱祭に関する思い出が書かれた文章。

回数の多さを感じさせない

フリートークのあとは、教科書Unit 7の音読だ。Unit 7の全文をCDで聴いたあと、何度も声に出して読む。

1回目は、CDの音声と同時に音読(読み方の確認もするため、各自小声で)。2回目はCDの音声と同時に大きな声で音読。3～5回目はペアで音読(立ったり座ったり、何らかの変化をつける)。読むことに不安のある生徒もこれだけ回数を重ねると慣れてくる。読み方が少し流れぎみになってくるので、先生は教科書のセンテンス“Taku, you were fantastic.”を板書して、次のように投げかけた。“Which word is important? (大事な言葉はどれ?)” 大事な言葉(このセンテンスの場合“fantastic”)は強めに読むとよいことを全員で確認したあと、6回目の音読を行った。

たくさん音読したあとは、本文をノートに書き写す活動を行う。今日の1時間だけでも、Unit 7全文を、8回も聴いたり読んだり書いたりする活動を行ったことになる。

活用力の伸びは驚異的

授業はいつも、前半はアウトプットの時間、後半は教科書を繰り返し聴いたり書いたりするインプットの時間という組み立てで行われている。



ペアで音読。発音に自信のない生徒には、小松先生が支援に入る。

る。「機械的に繰り返すだけでは意味がありません。繰り返しイン

プットする場と、それを活用できるアウトプットの場合をセットにするのがラウンドシステムなんです。そうすることで、確かな力になっていきます」(小松先生)。

その確かな力は、市の学習状況調査にもはっきりと表れている。ラウンドシステム導入前は、英作文などの活用問題の正答率の平均が一桁だったのが、導入後は大きく伸びて50～60%になったという。英検の二次試験にも非常に強い。即興で自分の考えを伝える力は抜群だ。

同校のラウンドシステムは今年で3年目。小松先生に、今後の課題についてきくと、正確さにおいて多少の不安があるので、2・3年生は文法の補完を行っているとのこと。校内の定期試験などで多かった間違いを生徒に示し、教科書本文とどこが違うのか投げかけて考えさせる。補完の効果はよく表れているようだが、細かい点をあまり深掘りしすぎると、生徒は気にしてしまい、話す量・書く量が減ってしまう。「今の3年生は、実は2年生のときのほうが話す量・書く量が多かったんです。ここを越えられると、もう一段上にいけると思うんですが……」。そう言いながらも、ラウンドシステムに対する迷いは見られない。

もちろん、同校の教員の中に戸惑いが全くないわけではない。「文法を早く教えてしまいたい」といった声もあがるそうだ。しかし、小松先生は「とにかく2年生の後半まで信じて待つことが大切なんです。そのころに、ラウンドシステムの効果が一気に表れて、子どもたちが見違えるように変わります」と言う。確かな結果が、先生の言葉を見事に裏付けている。





事例3

3年・ラウンド3(音読)

横浜市立中川西中学校 授業者: 榎本由理子先生

使用教材:『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』3(光村図書) Unit 7

「いくらやっても使えるようにならない英語教育は終わりにしよう」前校長の強い呼びかけのもと、同校では2017年からラウンドシステムを開始した。「教育熱心な保護者も多いこの地域では、受験のことを抜きにして英語教育を考えることはできません。ラウンドシステムは、もともと中高一貫校で考え出された学習法ですが、高校受験も視野に入れた、本校ならではのシステムをつくっていくことにしました」榎本由理子先生は語る。

本校ならではのといっても、和訳をしない、文法を先に説明しない、という点は同じだ。はっきりとわからない中で、わかることから理解しようとする姿勢を育てることが大事だという。榎本先生の授業には、それがよく表れている。

英語と日本語を1対1で対応させない

本時は、Unit 7のラウンド3(音読)。教科書のNew Wordsは、ラウンド3で初めて取り上げる。榎本先生は身振り・手振り、表情も駆使しながら、単語の意味を英語で説明する。

例えば“insist”の場合はこうだ。黒板のイラストを指しながら、“At first, Taku didn’t want to sing. (初めはタクは乗り気じゃなかった)”と状況を説明したあと、手を振りながら“Oh, no way! No way!”とタクの真似をしてみせた。“But his friends said, ‘You can do it. You are a good singer.’ (でも、彼の友達は「君ならできるよ、君は素晴らしいシンガーだよ」と励ました)” “At last(ついに)....”,

先生はここで少し間をあけてからタクの言葉と言った。“OK, if you insist.”生徒たちは、なんとなくわかったような、という表情をしている。そこで先生は、もうひと押しする。「学級委員を決めるときとか、リーダーを決めるときを想像してみてください」。すると一人の生徒が「わかった! 『どうしても』だ」と発言。ここでようやく先生は、“insist”は、強く要求する表現だということを伝えた。

「単語は、意味を一つだけ覚えても、状況が変わると使えなくなります。だから、どんな場面で使う言葉なのかを理解するように指導しています」(榎本先生)。同校のテストは、この教え方にきちんと対応している。英文の穴あき問題の場合、状況に合う単語を書ければOKなので、例えば“I had a () time.”の()は、“good”でも“great”でも正解だ。

活動は短く区切って集中させる

榎本先生の授業は、テンポのよさも大きな特徴の一つだ。一つ一つの活動を短く区切る。さ



できるだけ日本語は使わずに英文の内容を伝える榎本先生。



※1 「New Words」のワークシート

きほど全員で確認したNew Wordsを、今度はワークシート(※1)を使って音読する。本時の19個のNew Wordsに、音読しながらチェックマークを入れていく。タイマーを使って、時間を短めに区切るのがポイントだ。1分間で3周することが目標なので、かなり集中しなければならない。それが終わったら、先生は間髪を入れず「ペアA!」と呼びかける。生徒は隣りどうしでペアになり、お互いの音読をチェックする。終わると一瞬の間もなく、ペアB(前後)、そしてペアC(斜め)と続く。

この他、グループや個人での音読も行う。個人で行う場合は、四方読み(立ち上がり、正面1回、右向き1回、後ろ向き1回、左向き1回、正面1回と計5回読む)などを取り入れている。この方法は、生徒たちがスムーズに読めているかどうか、教師が目で確認できるよさもある。

教科書の内容を染み込ませる

もう一つ、同校ならではのシステムといえるものがある。毎時間の帯活動で、教科書内のタスク(「Try It!」などのリスニングやスピーキング活動のコーナー)を漏れなく使い、Unit本文で学んだことを確認、活用していく。「副教材はほとんど購入していません。あれこれ手を出し



テンポの速い授業に、生徒たちもすっかり慣れている。

ぎるよりも、まずは教科書の内容をしっかりと染み込ませようと考えています」。

榎本先生の方針は、だれよりも生徒たちに理解されている。本誌3～4ページの漫画に登場しているK君は、実は同校の生徒だ。K君のスピーチは、ラウンドシステムを実際に体験している生徒の思いがわかる貴重な内容だ。

学校の代表として素晴らしいスピーチを披露したK君について、榎本先生はこう語る。「彼は特別な生徒ではありません。本校の多くの生徒が、K君同様、英語で自分の考えを堂々と述べることができるんです。1年生のときから、“Why?” “Because....”の会話を繰り返していたら、3年生になった今では、英語の授業に限らずいろいろな場面で、このような会話ができるようになったとのこと。

「高校受験にも対応できるように」と考えて取り組んだラウンドシステムだったが、生徒たちは、すでに一つ上のステージに進んでいる。K君はスピーチの中で、「英語で話すことは楽しい」と笑顔で語っていた。何のために英語を学んでいるのか、同校の生徒たちは、その本当の意味をきっとわかっているに違いない。

[特集]
ラウンドシステムで
学力が大幅アップ!

ラウンド 1 リスニングによる 内容理解

イラスト(ピクチャーカード)をストーリー順に並べ替える活動を行います。

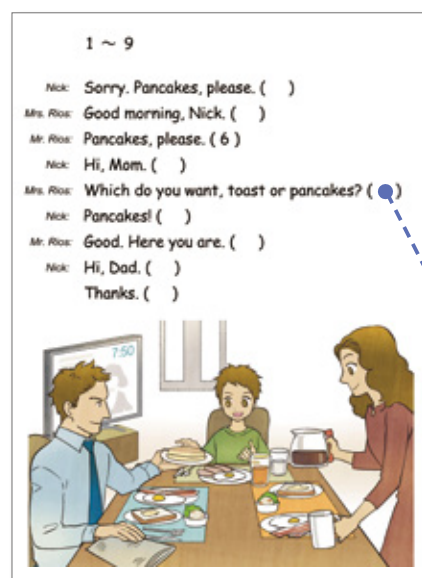
黒板に、イラストを順不同に並べて、教科書本文の音声を聴きます。クラス全員で話し合いながらイラストを並べ替えていきます。最後に、ストーリー順に正しく並んでいるワークシート(※1)を配布して、もう一度音声を聞きます。



※1

ラウンド 2 音と文字の一致

教科書本文の音声を聴いて、文章を並べ替える活動を行います。本文が順不同に並んでいるワークシート(※2)に、番号を記入します。



※2

〔特集〕
ラウンド
システムで
学力が大幅アップ!

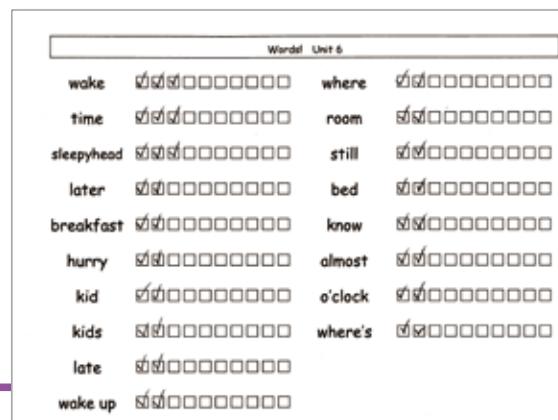
並べ替えが難しい場合、
あらかじめ、いくつかの
()に数字を入れて
おきます。

並べ替えの答えは、上から
(7)(3)(6)(1)(4)(5)(8)(2)(9)
となります。

※3

ラウンド 3 音読

教科書本文を音読する前に、New Wordsの読み方を確認します。ワークシート(※3)にチェックマークを入れながら、繰り返し音読します。



ラウンド 4 穴あき音読

教科書本文に穴があいているワークシートを音読します。

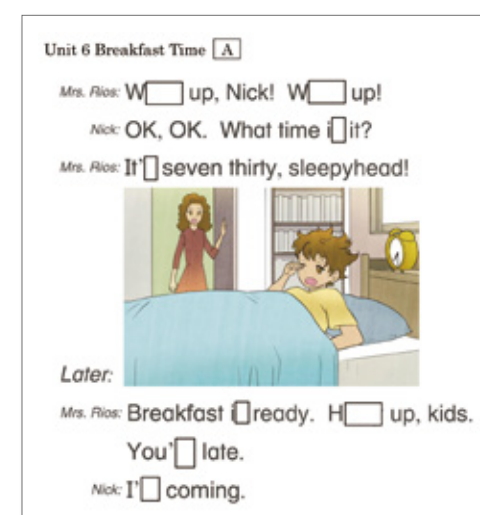
ワークシートは、A～Dの4段階あり、難易度が上がっていきます。

参考 2・3年の場合、ラウンド4のワークシートは次の4段階です。

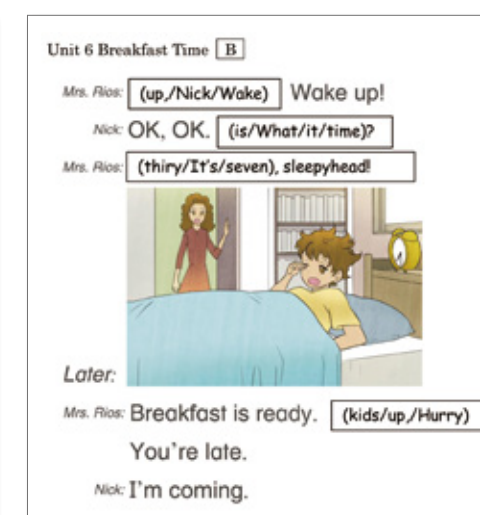
- A…動詞の部分に穴
- B…前置詞の部分に穴
- C…ある程度
まとまったフレーズに穴
- D…全体の8～9割程度が穴

※A・Bは全員取り組み、
C・Dは、チャレンジしたい
生徒のみ取り組むなど、
クラスの状況にあわせた
使い方もできます。

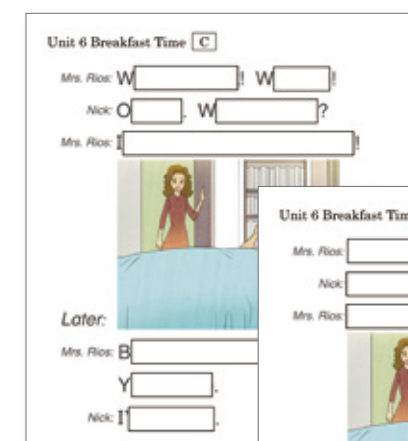
A 動詞の部分に穴があいている



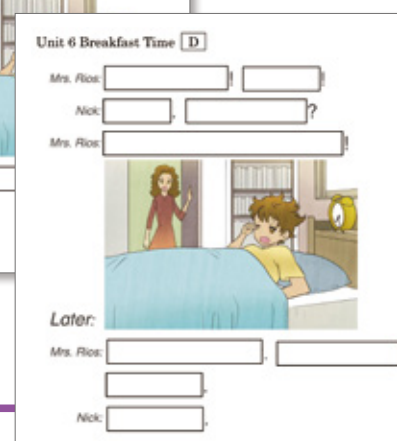
B 囲み部分を並べ替えながら音読



C 文頭の文字以外は穴



D ほぼすべて穴



ラウンド 5 リテリング

教科書の内容を自分の言葉で友達に伝えます。

ラウンド1の最後に配布したワークシート(※1)を使います。



…………… 第 6 回

小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べてきました。最終回の第6回目は、「授業づくりを振り返るポイント」です。

小中連携のポイント

授業づくりを振り返るポイント

POINT
1 活動を3つのタイプに分けて振り返る
(必要な活動は入っているか)

POINT
2 児童・生徒が振り返る場を設定しているか
(活動後の振り返りが大切)

太田 洋

おた・ひろし

東京家政大学教授

東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。

東京都の公立中学校、

東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、

駒沢女子大学教授を経て現職。

小学校英語教科書『Here We Go!』、

中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』

(ともに光村図書)の編集委員を務める。

1. 活動を3つのタイプに分けて振り返る

授業中の活動を、「話す」を例に考えてみましょう。話すためには、内容(何を話すか)と言語(どのような語彙、文法を使うか)とを考える必要があります。そこで授業中の活動を、この2点をもとに分類して、3つのタイプに分けてみました。表1をご覧ください。

	内容	言語
タイプ1	制限あり	制限あり
タイプ2	フリー	制限あり
タイプ3	フリー	フリー

タイプ1…ドリル活動

タイプ2…自己表現、インタビュー活動

タイプ3…トライアウト活動

表1 話す活動のタイプ分け

タイプ1は、話す内容も使う言語も制限する、つまり教師が決める活動です。これには機械的なドリル、つまり文型ドリルなどが当てはまります。

タイプ2は、話す内容はフリー、つまり児童・生徒が決める、ただし使う言語は教師が決める活動です。これは新出文法事項やターゲットの表現を使って、自分のことを話したりインタビューを行ったりする活動です。

そしてタイプ3は、話す内容も使う言語も児童・生徒が選ぶ活動、「まずやらせてみる」活動(私は「トライアウト活動」と呼んでいます)です。

この3つのタイプの活動を、自分の授業の中でそれぞれどのくらい行っているかをチェックすることが、授業づくりを振り返るポイントになります。

さて、小中連携を考える際にどのタイプの活

動が必要になるでしょうか。私はタイプ2と3だと考えています。小学校で習った英語表現は、繰り返し触れて使わなくては身につけません。しかしタイプ2だけでは十分ではありませんね。指定の文法事項や表現を使うだけでは、本当の意味で使えるということにはならないからです。そこでタイプ3の活動、「この内容を話したいときに、自分が知っている表現から選んで使う」経験をさせることが必要になります。つまり、「既習事項を使わせる機会をつくってみよう」というのが、タイプ3の発想です。

どのようなことができるでしょうか。例えば、スリーヒントクイズを作らせる際や、自己紹介などのミニスピーチをさせる際、テンプレートを与えて文型や表現を制限して(指定して)話させるのではなく、児童・生徒に決めさせるといいでしょう。

自分の授業を活動のタイプから振り返ってみると、あらたな気づきがあると思います。

2. 児童・生徒が振り返る場を設定しているか

次の振り返りのポイントは、タイプ3の活動を行う際に関連しています。タイプ3の活動で、既習事項を活用させた後、どうしていますか。よく見るのが、活動をさせてそれで終わりというものです。

活動をすること自体も大切ですが、私はさせっぱなしで終わってしまうのはもったいないと思います。では、どうしたらよいのでしょうか。この活動をしているときに、児童・生徒は何を感じているかを考えてみるとわかりますね。児童・生徒は「言いたくてもうまく言えない」「こういうとき、英語でどう言ったらいいのだろう」など、言いたいことと言えることにギャップがあるこ

とを感じているのではないのでしょうか。

そこで有効なのが、こうしたギャップを埋めるために、クラス全体で振り返る場をつくることです。活動が終わった後、「言いたかったけれど言えなかったことは何か」を児童・生徒から引き出しましょう。知りたいときが学ぶときです。必要性を感じさせて、それを教えることで、知識を習得することの意味を実感させることができます。また、ここで、個々の学びのよい例を取り上げることで、クラス全体の学びにすることもできます。

振り返り、知識を得たり既習事項を復習したりした後で、ペアを変えるなどしてまた同じ活動をするといいでしょう。その後、また最後に振り返ると、より効果的です。

この活動の流れは次のようになります。

タイプ3の活動(1回目)



振り返り(1回目)



タイプ3の活動(2回目)



振り返り(2回目)

「教えてから使わせる」でなく、「使わせてから(必要性を感じさせてから)教える」という流れです。自分の授業の中に、活動後の振り返りの時間はあるかな、と振り返ってみてください。

今回お伝えした2点は、小中連携の授業づくりをするうえで大切なポイントです。ぜひ一度チェックしてみてください。

＊ ＊

6回にわたり、小中連携のポイントを述べてきました。小中連携の授業づくりのお役に立てば幸いです。ありがとうございました。

今日から使える!

Classroom English

Lesson 5

活動の指示の表現③

この夏に北は仙台から南は福岡まで、全国で小学校教員向け英語力・指導力向上セミナーを開催しました。参加者の中には、来年度からの新しい教科書の指導に不安を感じている方も少なくありませんでした。

今年度使用中の文部科学省作成の補助教材『Let's Try!』や『We Can!』の活動で使っている指示英語は、新しい教科書の指導にも役立ちます。『Let's Try!』や『We Can!』の主な活動には、「Let's Listen(聞いてみよう)」「Let's Watch and Think(映像を見て、考えてみよう)」「Let's Sing(英語で歌おう)」「Let's Play(ゲームをしよう)」などがありますが、活動のタイトルをそのまま指示に使える便利です。

来年度からの指導でも、小学校外国語・外国語活動は、聞いて慣れ親しむものが中心であることに変わりはありません。今回は、さまざまな聞く活動に使える表現を紹介します。“Let's listen.”だけで終わらずに、「聞いて何をするのか」を具体的に伝える単語をおさえて、聞き取りの活動を進めやすくしましょう。

Listen and connect.

聞いて線を結びましょう。

「誰がどの色が好きか聞いて、線で結ぼう」といった、聞いて線を引く活動の指示です。「つなぐ」という意味の単語 connect を使いますが、コネクトというカタカナ読みにならないように気をつけましょう。ポイントは、「ネ」を強く読むことです。「線を引く」という draw a line(複数は lines) という表現も使えます。いずれにしても、線で結ぶことが児童に伝わるように、ジェスチャーをつけて指示を出す練習をしておきましょう。

Listen and write.

聞いて書きましょう。

聞いて名前を書く、番号を書くといった活動で使える表現です。具体的に何を書くかまで伝えるようにすると、次のように表現できます。“Listen and write a friend's name.” “Listen and write the number.” 表に書き込むときは、“Write the number in the chart.” □の中に書き込むときは、“Write the number in the box.” と伝えることができます。前置詞(in/on/at など)や冠詞(a/an/the)などが難しいと感じるときに便利な単語が、「ここに」を表す here です。書く箇所を指示しながら “Write the number here.” と伝えましょう。

菅井幸子 すがい・さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国のエデュコムや学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

Write what you learned.

わかったことを書きなさい。

高学年の聞く活動で多く出てくるのが、「わかったことを書く」です。「わかる」と聞くと understand を思い浮かべる人もいるかと思いますが、「聞いて、何かを知る」という意味では learn を使しましょう。ここでの what は、「何」を表す疑問詞ではなく、後ろの you learned までを含めて「あなたがわかったこと」という意味です。“Show me what you wrote.” (書いたものを見せてください。) “Share what you talked about.” (話し合ったことをシェアしてください。) などのバリエーションもぜひ活用してください。

Listen and draw pictures.

聞いて絵を描きましょう。

漢字でも、「書く」と「描く」とは表記が違うように、英語でも単語が異なります。「線を引く」で紹介した draw が「描く」に当たります。天気絵を描くのであれば、“Draw a weather picture.” といった具合です。○や△も、日本語では「書き」ですが、英語では draw を使います。それぞれ次のように表せます。“Draw a circle.” “Draw a triangle.” draw はカタカナ読みしがちですが、dr の部分は「ド」よりは「ジュ」の音に近づけると、より自然な発音になりますよ。

What did you hear?

何が聞こえましたか。

聞く前の指示は listen なのに、聞いた後の質問は hear です。この二つの単語の違いは、簡単に言うと listen は「しっかり聞く」、hear は「聞こえる」です。聞き取りの活動では、児童によって何が聞こえたかは違いますね。なので、この表現を使って、児童にどんな言葉が聞こえたかを尋ねましょう。what などの疑問詞で始まる質問は、文の最後のイントネーションを上げて言いましょう。what と hear の部分を強く読むと英語らしいイントネーションになりますよ。

★ここがポイント!!

皆さんが経験したことのあるリスニング活動は、一度だけ聞いて答えを確認するようなものが多かったのではないのでしょうか。小学校でのリスニング活動は、「何度も聞く」ことを前提としていますね。“What did you hear?” と児童に尋ねたら、聞こえた単語を何かしら答えてくれるでしょう。それが正しくても違っていても、“Are you sure?” (ほんとかな?) などと声掛けをして、答えの確認のために再度音声聞かせる指示が、“Listen again and check your answers.” です。

小学校英語とデジタル教科書・教材のこれから

4月から使用開始となる英語教科書には、多くの「聞く」活動が位置づけられています。『We Can!』のデジタル版のように、教科書と連動したデジタル教科書や教材の活用に期待される先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。光村図書では、小学校英語教科書『Here We Go!』準拠のデジタル教科書をはじめ、さまざまなデジタル教材を豊富に取り揃えています。これらの使い方や学習効果について、長年にわたり小学校英語教育に携わってきた、東 仁美先生(聖学院大学教授)におうかがいしました。

1 小学校英語では、なぜ音声を聞くことが活動の中心になるのでしょうか。

言語は、【インプット→気づき→理解→インテイク(内在化)→統合→アウトプット】という流れで習得されるといわれています。言語の習得はまず大量に聞くこと(インプット)からはじまり、聞くことによって作られた言語データの中から、言葉の意味や使い方のルールに気づいたり理解したりしながら、発話などのアウトプットにつなげていくわけです。このプロセスは逆三角形の図式となります。つまり、話すことができる量は、聞いた量に比べて、かなり少なくなってしまうのです。

そこで、たくさん聞くことが必要になるわけですが、何でもいいから聞かせればいいのかというわけではありません。能力よりも少し上のインプットを与えることが大切だといわれています。授業では、音声を聞かせる前にキーワードやヒ

ントを与えるなどし、簡単すぎないように、そして少しだけチャレンジングになるようにコントロールしてあげてほしいですね。

2 音声だけの教材ではなく、映像教材を用いることで、どのような効果がありますか？

動画や写真があることで、子どもたちの想像力がかき立てられ、音声だけの教材よりも言語が使用される状況や場面が推測しやすくなります。実は、言語の習得において、この「推測する力」はとても重要です。第二言語の習得には、あいまいな状態を受け入れられる能力を持つ学習者が有利であるといわれています。つまり、わからない部分があっても推測しながら理解しようとし、全体として「なんとなくわかる」と受け入れる力が重要だということです。その点で、デジタル教科書 Here We Go! のアニメーション(※1)は、少し長めの動画ですが、子どもにとってわかりやすい場面設定なので、インプットのための教材として優れているといえます。

もう一つ、「チャンツ」の活動においても、映像を用いることによる効果が期待できます。例えば、デジタル教材 リズムマスター(※2)を活用すると、キャラクターの動きに合わせて自然と体を動かすことが促され、上手に英語らしいリズムが取れるようになります。

3 大きな画面をクラス全員で見える形式と、タブレット端末を個別に使う形式では、どのような使い分けが必要ですか。

活動内容によって使い分けるといいでしょう。例えば、映像を見てどんな話をしているかを推測するような活動では、一斉に視聴して、全員で意見を出し合う形式が向いています。



※1 小学校英語デジタル教科書 Here We Go!
5年 Unit 2 アニメーション

一方で、知識・技能の習得にかかわるもの、例えばアルファベットに慣れる活動や書く活動では、一人1台端末があると、学習機会が増やせます。デジタル教材 アルファベットマスターは、個別の学習にも効果的な教材だと思います。ゲーム性が高く、繰り返し挑戦させることで、文字認識の力が向上する効果が期待できます。また、例えば4線の上にアルファベットを書く活動では、すぐに画面上に正しい書き方が表示され、その場で訂正ができるので、添削にかかる教師の負担を減らす効果もあります。

ただし、個別に行う場合には、教師の指示の出し方がポイントになります。「声に出しながらやろうね」「解答をきちんとみようね」など、目的や手順を示し、しっかりした環境づくりを行ってから挑戦させ、最後はクラス全体で振り返ることで、個別学習が生きてきます。「一斉」と「個別」を行き来することで、学びを深めていくように心掛けるといいですね。

4 モジュール(短時間)学習や、授業のウォームアップでデジタル教材を使う効果を教えてください。

モジュール学習を行うメリットとしては、繰り返しによる語彙や表現などの定着が図れることと、インプットの量が確保できることが挙げ



※2 小学校英語デジタル教材 リズムマスター
Lesson 1 “How do you spell it?”

られます。そのため、使用する教材は、繰り返し飽きずに使えるものがいいと思います。ここで、デジタル教材ならではの強みが生きてくるのです。

例えば、アルファベットマスターでは、アルファベットの歌を、A～Zだけでなく、Z～Aの逆バージョンで流す、歌の途中(例えばJ)から流すなどのカスタマイズ再生が可能なので、教師がクラスの実態に合わせてさまざまなメニューを組むことができます。授業の始めにウォームアップとして声を出させることで、子どもたちを英語モードにギアチェンジさせる効果も期待できますね。

デジタル教科書・教材を使うことに抵抗を感じる先生もおられると思います。しかし、子どもたちが飽きずに取り組めるためのさまざまな仕掛けは素晴らしく、「楽しみながら学ぶ」という日本の小学校英語が掲げている目標の面でも、デジタル教科書・教材の貢献は大きいと思います。



東 仁美
ひがし・ひとみ

聖学院大学欧米文化学科教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。令和2年度から使用開始となる、光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。デジタル教材「リズムマスター」「アルファベットマスター」制作協力者。

デジタル教科書・教材の詳しい情報はここから -->



子どものためのBOOK GUIDE



I am a Bunny

著者：Ole Risom
イラスト：Richard Scarry
出版社：Golden Books

前 今回紹介した絵本は初版の出版が1982年でしたが、今回は1963年。なんと第1回東京オリンピックの前の年。超ロングセラーです。絵を描いたリチャード・スカーリーは幼年向けの絵本作家ですが、いまでもたくさんの絵本が読まれていて、日本語に訳されたものも少なくありません。

この絵本、絵も色も見ると古い感じがしますが、それがまたいい雰囲気を出しています。タイトルも実にシンプル。I am a Bunny。冒頭の文章もシンプル。

I am a bunny.

My name is Nicholas.

I live in a hollow tree.

説明不要の3行ですが、“hollow tree”は、絵を見てのとおり、「うろのある木」です。なんで「うろ」なんてものが木にできるのかは百科事典で調べて、子どもたちに教えてあげてください。林や森に行くと案外たくさんみつかります。

さて、この絵本は、ウサちゃんの過ごす四季をつづったもので、次の見開きは“In the spring, I like to pick flowers.”その次が“I chase the butterflies, and the butterflies chase me.”こんな調子で、夏、秋、と続き、最後は冬になって、雪が降り、“Then I curl up in my hollow tree and dream about spring.”

文章はすべて現在形。その意味でもいい教材になるでしょう。絵を見せながら読み終えたら、子どもたちにきいてみましょう。「この子は男の子かな、女の子かな」。ウサちゃんが遊ぶ姿がとてもかわいいので、「女の子!」と答える子が多そうですが、最初に“My name is Nicholas.”とあります。日本の子どもにはこれが男性名か女性名かわからないかもしれませんが、Nicholasは男性名。ちなみに、Saint Nicholas(聖ニコラウス)司教は、Santa Claus(サンタ・クロース)のモデルになっているといわれています。諸説あるのですが、そんな話もしてあげると、さらに親しみがわくのではないのでしょうか。

金原瑞人
かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど550点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

令和2年度

「言語教育振興財団」 研究助成金一般公募の お知らせ

助成内容

- ①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門)
- ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門)
- ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)

研究期間

令和2年4月～令和3年3月(原則1年間)

応募資格

言語教育(国語、英語、日本語・道徳等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見なされる団体及び個人

助成件数及び金額

- ▶助成件数は60件程度
- ▶助成金額は1件につき原則として、学校・団体20万～35万円、個人15万～25万円

助成金使途の制限

- ▶助成金の使途は、研究に直接関係するものに限り。インフラ整備のための物品購入は対象となりません。研修出張費は、交付額の30%を限度とし、研究に関係しない研修出張費は助成の対象とはなりません。

一般財団法人「言語教育振興財団」では、令和2年度も小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象として、今日の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成を行います。

応募方法・締め切り

- ▶研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、令和元年12月20日(金)必着で、当財団事務局に郵送のこと。
- ▶「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手(120円)を同封の上、当財団事務局までお申し込みいただくか、財団ホームページから申請書をダウンロードしてください。

決定・発表・交付

令和2年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は3月末までに文書にて通知します。交付は、4月末までに指定された金融機関に振り込みます。

問い合わせ先

一般財団法人
言語教育振興財団 事務局
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-19-9
TEL&FAX 03-3493-7340
E-mail: gengo-k@star.ocn.ne.jp

※詳細につきましては、財団のホームページ(<https://gengo-k.jp>)をご覧ください。



小学校「英語」教科書
『Here We Go!』
サポート資料の
ご紹介



『Here We Go!』教師用指導書

書名		価格
Teacher's Manual 学習指導書セット 〈指導書／ワークシート集／ラウンド制指導ガイドブック／ Teacher's Book (朱書)／Teacher's Book [English Version] (英語版朱書)／ DVDセット(データDVD1枚、映像・音声DVD1枚)〉		5・6年 各28,000円＋税
分 売 分	Teacher's Book (朱書) ※「Teacher's Manual 学習指導書セット」内の朱書と同じ内容。	5・6年 各6,000円＋税
	Teacher's Book [English Version] (英語版朱書) ※「Teacher's Manual 学習指導書セット」内の英語版朱書と同じ内容。	5・6年 各6,000円＋税
	DVDセット ※「Teacher's Manual 学習指導書セット」内のDVDセットと同じ内容。	5・6年 各7,000円＋税

『Here We Go!』準拠 指導用教材

書名		価格
教 師 用	ピクチャーカード(ストーリー編) 基本表現シート付	5・6年 各37,000円＋税
	ピクチャーカード(単語編)	5・6年 各23,000円＋税
	トランプサイズ 巻末カード	5・6年 各1,300円＋税
児 童 用	アニメーションDVD	5・6年 各2,000円＋税
	学習ノート	5・6年 各300円＋税
	アルファベット練習帳	250円＋税

『Here We Go!』準拠 デジタル教科書・教材

書名	価格
指導者用デジタル教科書(教材)	5・6年 各58,000円＋税 ※1年間利用 各19,000円＋税
学習者用デジタル教科書	5・6年 各500円＋税
学習者用デジタル教科書＋教材	5・6年 各1,000円＋税

小学校英語デジタル教材

商品名	価格
マスターシリーズ リズムマスター 好評発売中!	5・6年 各25,000円＋税 ※1年間利用 各8,000円＋税
マスターシリーズ アルファベットマスター 好評発売中!	5・6年 各25,000円＋税 ※1年間利用 各8,000円＋税
マスターシリーズ ワードマスター 2020年3月発売予定	5・6年 各25,000円＋税 ※1年間利用 各8,000円＋税

その他の教材

商品名	価格
小学校英語 学校掲示物セット 好評発売中!	5,000円＋税
小学校 教室英語ハンドブック 好評発売中!	900円＋税
小学校英語 はじめてのアルファベット練習帳 好評発売中!	250円＋税



『Here We Go!』映像でわかる指導ガイド



6年 Unit 8
「What do you want to be?」の
模擬授業の様子を、
光村図書ウェブサイトにて公開中!

学びを
わくわく
させるのは
デジタル
教科書だ。



2020
Spring

令和2年3月
発売!

ラインナップ

令和2年度版教科書対応

学習者用【1ライセンス/1ユーザ】
デジタル教科書

- 国語…1～6年 各800円＋税
- 書写…1～6年 各300円＋税
- 道徳…1～6年 各500円＋税
- 英語…5・6年 各500円＋税

学習者用【1ライセンス/1ユーザ】
デジタル教科書＋デジタル教材

- 国語…1～6年 各1,400円＋税
- 英語…5・6年 各1,000円＋税

指導者用【学校フリーライセンス】
デジタル教科書(教材)

- 国語…1～6年
各72,000円＋税／各24,000円＋税(1年間利用)
- 英語…5・6年
各58,000円＋税／各19,000円＋税(1年間利用)



表示ソフトウェアは、
「まなビューア」を
採用しています。



▼詳しい商品情報はこちら

www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_digital

光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材

英語 Here We Go! 相談室
教育 | No.06 |

2019年10月29日発行

発行人 ● 小泉 茂

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文＋深山貴世)

イラスト ● 小林 マキ 編集協力 ● 株式会社エスクリプト

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社



光村図書

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。